

科目名	基礎看護Ⅶ (診療の処置・創傷管理技術)				DP1、DP2、DP3 DP4、DP6		看護高等課程
学年	1年	分野	専門 基礎看護 基礎看護技術	時間数	30時間	担当教員	専任教員
科目概要	診療処置に伴う看護技術は、身体侵襲や苦痛を伴い、医療事故のリスクも高い。そのため、人体の構造と機能の理解や安全管理、感染予防を視野に入れ、処置の目的を達成するために正確かつ安全・安楽に実践する方法を学ぶ。処置の種類・目的・原理原則、根拠を踏まえた看護技術の実際と羞恥心や苦痛の軽減に向けた看護を習得できる内容とした。						
到達目標	1. 創傷の処置、褥瘡予防の援助方法が理解できる。 2. 診療の処置に伴う技術について方法と留意点について理解できる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1～7	創傷管理技術		創傷管理の基礎知識、創傷処置 創傷管理援助の実際			講義 演習	専任教員
	褥瘡の予防		褥瘡の基礎知識と治療とケア				
	診療の処置に伴う技術 (電法・浣腸・導尿・洗浄)		電法(体温調節・末梢循環促進)、浣腸、導尿の実際 洗浄(胃洗浄、膀胱洗浄)				
	試験		(1時間)				
8～14	診療の処置に伴う技術 (穿刺・吸引・吸入・体位ドレナージ・包帯法)		穿刺(胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺)の 介助と看護の実際 吸引(一時的吸引法、持続的吸引法)、吸入(噴霧吸入、 薬液噴霧、酸素吸入)、呼吸を助ける援助 体位ドレナージ 包帯法・巻軸帯・三角布の目的と種類、及びその実 際			講義 演習	専任教員
	試験		(1時間)			試験	
評価基準	100点満点とし、6割以上を合格とする。また、授業時間数の3分の2以上の出席が必要となる。						
評価方法	出席状況と講義演習への参加態度、課題レポート、筆記試験などで総合的に評価する。 また、演習の内容によっては、シミュレーション演習、パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。						
教科書	新看護学 7 基礎看護 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護後術 医学書院 必要時、資料等は配布する。						
履修上の 注意点							